

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あやとり )

事業所番号	0671500288		
法人名	社会福祉法人 長井弘徳会		
事業所名	グループホーム リバーヒル長井		
所在地	〒993-0061 山形県長井市寺泉3081-21		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 9 日	開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で、広々とした建物が特徴である。畑での収穫やその収穫物での調理を通して季節を感じ、その方の生活スタイルに合ったその人らしい暮らしが送られるように配慮しています。法人に2つのグループホームがある利点を活かし、お互い協力しながら情報交換を行い、よりよいグループホームになるよう努めています。又、職員を対象とした所内研修や外部研修への参加を奨励するなど、最新の認知症介護について学びを深める機会を持ち、介護現場に活かして行くよう努力を重ねています。家庭的な雰囲気の中で、常に入居者様主体の介護を意識し、「笑顔あふれる我が家」の理念のもと、笑いある介護を目指し頑張っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 4 年 10 月 19 日	評価結果決定日	令和 4 年 11 月 8 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその方らしい生活を継続できるよう支援していく為、職員の思いを取りまとめ、事業所内に理念を掲示し、職員のネームプレートにも入れており、時折確認しながら各自意識付けを行っている。スタッフ会議などでも理念に沿ったケアが出来るか確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症により、地域の行事の簡素化や中止が多くなっている。法人全体で外部との接触を禁止としている為、通常の交流はまだ再開できていない。法人の指示に従いながら感染対策を取り、受診での外出や少人数でのバスハイクは実施できている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議において、事例紹介や生活の様子を写真で見ながら説明を加えることで、認知症の理解や支援方法をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動状況、事故報告、ユニットごとのエピソード、スライド写真を紹介し事業所の理解を得られるように努めている。地域からの行事等の情報、市からの保険情報について、意見交換や情報を得てサービスの向上に努めている。コロナ感染拡大により、推進会議が行えない月もあったが、文書にて情報報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議では市職員から介護保険関連情報として、市や他事業所の情報を得ている。また、入居者に関する相談や制度上の手続き情報や助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	事業所内で身体拘束適正化委員会を設け、全職員が委員となり、3ヶ月ごとに会議を行い、現状について意見を出し、身体拘束にあたる行為を日頃のケアで行っていないか、振り返り確認している。事業所の玄関には鍵をかけず、常に利用者ひとりひとりの行動を把握し、声がけや見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所毎に虐待防止委員会・感染対策委員会が設置され、全職員が委員となっている。スタッフ会議で、指針の読み合わせ、研修を行っている。不適切ケアが行われていないか、些細な事例でも会議等で繰り返し話し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人職員を対象とした、権利擁護やコンプライアンスについての動画視聴、研修会に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り丁寧に説明している。特に利用料金、重度化、看取りについての対応、医療連携体制については詳しく話をし、同意を得ている。入院に伴う退居、将来的な内容についても説明し、不安や疑問に答えられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内でのアンケート調査を実施し、ご利用者やご家族の意見を頂いている。また、事業所玄関には「ご意見箱」を設置し、家族の来訪時や電話で頂いた意見をスタッフ会議等で検討し、運営に反映させている。ご利用者の要望についても日頃の関わりの中から引き出し、叶えられるようにしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて法人、事業所の決定事項を伝達し、職員の意見も聞いている。必要時には管理運営会議に反映するようにしている。法人への意見、要望については、親睦委員会の活動として全職員に毎年アンケート調査をしている。各事業所から選出された委員が委員会へ持ち寄り職員の意見、要望が反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では、少なくとも年2回人事考課を実施し、職員個々の実績や状況を把握している。安全衛生委員会による労働環境の把握、ストレスチェックの実施、産業カウンセラーによる面接制度の採用により、メンタルヘルスの対応にも配慮している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、今年度から各事業所の研修係が主となり、研修の案内や研修日誌の管理等を担い、全職員が働きながら学べるよう工夫している。コロナ感染予防の為、ZOOMにて各事業所の代表1名が参加し、スタッフ会議にて伝達研修をして内容を共有している。外部研修でもZOOMを利用して研修をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍の為、外部との交流は出来なかったが、法人内の委員会や研修会で意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族からセンター方式シートに情報を記入していただく事で、ご利用者の把握や信頼関係の構築につないでいけるようにしている。さらに、自宅で使用していた馴染みの物を持参していただき、安心できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所オリエンテーションの際に、ご家族と話をする機会を設けている。ご利用者とご家族の関係性もふまえ、要望や困っている事を把握し、信頼関係の構築に努めている。来訪時や電話等、いつでも話が出来る機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を確認し、どのような支援が必要なのかを検討し、必要なサービスにつなげている。その内容についても記録し、職員間で情報共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度、掃除、洗濯物干し、たたみ方、畑仕事等の作業を職員と一緒にしている。昔ながらの知恵や経験からの教訓を教えてください、暮らしを共にするもの同士、馴染みの関係と信頼関係が築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回の近況報告とご家族来訪時や電話連絡等で状態を報告し、ご家族と情報共有している。医療的な面での心配があるご家族に対しては、受診の際、同行させていただき、ご本人にとって良い治療が出来るようご家族と一緒に考え、支え合う関係を築いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、行事への外出は出来なかったが、感染対策をとり、少人数で市内の公園に花見に出掛け、季節を感じてもらえるような支援をしている。ご利用者からの希望で、自宅まで職員と個別で出掛ける事もあった。また、ご家族や知人の来訪時は窓越し面会を行い、これまでの暮らしの関係を継続できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を大切にして、気の合う方が同じテーブルになるよう配置変えをしている。ご利用者同士が支え合い、馴染みの関係が築けている。時にはトラブルに発展しそうな場面もあるが、職員が間に入って対応している。必要時は配置も検討している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態の変化などで入院や他施設に移られた方には電話等で連絡を取り本人の様子を伺ったり、家族から話しを聞き、必要な支援があれば都度、対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での会話やエピソードを記録に残し、職員間で情報共有している。ご家族からも情報をいただき、本人の希望や意向の把握に努めている。また、思いや意向を盛り込んだ企画として、誕生日には本人の食べたい物を献立に取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力を得て、生活歴を教えてくださいながら、生活の把握に努めている。ご本人から直接お聞きしたり、普段の何気ない会話の中や、日々のアクティビティの様子を見ながら情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの持つ力を十分に発揮できるよう、声かけや関わりを工夫し支援している。個人の生活リズムを尊重している。体調の変化により食事水分が進まない時はチェック表を用いて状況把握に		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向等を事前に伺い、意向に沿って担当者、計画作成担当者がケアプランを作成している。グループ会議内でカンファレンスを開催し職員間で情報共有している。3ヶ月毎にモニタリングを行い見直しを行っている。状態に変化があった場合は都度見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画の実践等、エピソードを交え毎日記録に残している。出勤時は各自記録やミーティングノートを確認し、情報収集を行っている。職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居後も、一人ひとりの暮らしを支える地域資源を活用している。かかりつけ医を継続し、受診は基本的に家族の付き添いを依頼している。今年度もコロナ禍で地域活動自体も少なく、参加の機会が無かったことやボランティアの受け入れも行っていない。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診の際は、最近の様子を記入した連絡表を持参し、かかりつけ医には結果や指示を記入して頂いている。基本的には家族同行受診としているが、不可能な場合は職員が同行支援を行っている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と医療連携体制を取り、日頃の健康管理や相談、助言を頂いている。利用者の状態に変化があった時は都度、状態を報告し受診に繋げている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を医療機関に提供している。入院中は家族に状態を聞いて情報を得ている。コロナ禍で家族の面会も制限があることから、病院から直接連絡がくることもあり情報を得ている。早期に退院できるように、病院関係者には家族と一緒に面談させていただいている。利用者が安心して治療できるように支援している。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の指針」について家族に説明し同意を得ている。重度化した場合には、医療連携看護師や家族、主治医に相談し「看取り同意書」の取り交わしを行っている。看取りについて職員間で話し合い、研修も行っている。緊急時の訓練もマニュアルに沿って行い、チームで支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間訓練計画を立て、全職員が訓練に参加し実践力が身につけられるよう、毎月訓練を実施している。マニュアルを確認しながら、反省点を共有し改善している。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人主導で年2回の火災訓練を実施している。事業所独自で1, 2ヶ月毎に昼夜を想定した訓練を行い、改善点など見直しに繋げている。地元2地区と災害協定を結び、協力体制を築いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを損ねないように、職員は、声かけの内容や声のトーンに配慮している。対応で気づいた事は、事例を上げながら、職員間で話し合い、一人ひとりに合わせた関わりを心がけている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において利用者が主体となり、思いや願いを表現出来るように常に傾聴している。思いや願いの表現が難しい方は、これまでの生活の中の情報から、思いを汲み取り支援している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、個々の生活のペースを大切にその時々を尊重している。利用者の希望や楽しみを情報共有し、体調に配慮しながら、個別性のある支援を行っている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	色や柄、素材などその人の好みやこだわりの衣類が選べるよう、季節に応じ衣類の交換を行っている。就寝時のパジャマへの着替えなど習慣が継続できるよう支援している。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜や季節の食材を使用し、職員と一緒に調理や盛りつけ、片付け等を行っている。郷土料理や手作りおやつなども会話がはずみ楽しみとなっている。誕生日には好物を伺い献立に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節感や個々の好みを取り入れ、栄養バランスに配慮し献立作成している。体調や摂取状況に応じて都度食事形態を工夫している。習慣に応じ、水筒持参の方もおられる。食事水分摂取量が少ない場合はチェック表を使用し、状態把握に努め必要時医療に繋げている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じて口腔ケアの声かけや必要に応じて介助を行い、口腔内の清潔に努めている。週2回義歯洗浄剤を用いて洗浄している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握と個々に合わせたトイレ誘導を行っている。排泄介助時は利用者のプライバシーや羞恥心、自尊心に配慮した声かけや対応を行っている。また自分で紙パンツが交換できるよう居室に定数を準備している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や、食材に繊維質の多い食品や乳製品、オリゴ糖等を使用し便秘の予防に努めている。下剤については、個々のかかりつけ医に相談し処方してもらい、排泄チェック表を確認しながら調整している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴支援を行っている。午後から入浴できる体制を整えているが、希望があれば午前入浴も実施している。入浴の拒む時には時間や日を変えたり、気の合う方と共にお誘いし楽しく入浴できるよう支援している体調に応じ入浴が出来ない場合は清拭を行っている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに生活リズムや体調に合わせてながら休息の声かけを行っている。日中は活動を取り入れ、安心して穏やかな日常が過ごせるよう配慮している。個々に応じパジャマへの更衣をし、室温、湿度、照明を調整し、安眠できるよう支援している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効果や副作用については処方箋を確認することを習慣づけている。処方薬に変更がある場合は、受診時連絡表に記入された医師の指示事項や家族からの情報により確認している。服用後の状態変化について観察し、必要に応じ医療連携看護師やかかりつけ医と連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や普段の会話の中から情報を収集し、本人に合った役割や楽しみの活動を行っている。ピアノ演奏が好きの方にはピアノを弾けるよう準備し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。作業後に感謝の気持ちを言葉にして伝えている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出の機会は制限せざるを得ない状況である。感染対策をとり、少人数でのバスハイクを実施。四季の花を鑑賞し、季節を感じてもらえる良い機会となった。また、希望に応じてホームの周りを散歩したり、畑作業や収穫をしたりし、短時間ではあるが日常的な外出支援が出来るよう努めている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方には家族や本人の希望で、GHで管理している。個人で管理されているかたもあり、希望に応じて使用できるように支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも電話ができるように支援している。定期的に家族や兄弟からの手紙やはがきを受け取っている方もおり、お礼の電話をかけている。また、携帯電話を持ち込んでいる方もおり、家族とゆっくり通話されている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは明るく庭の草花や畑の野菜が見え、季節が感じられるようになっている。室内には季節の花を飾り、穏やかな雰囲気作りに努めている。定期的にフロアの換気を行い、感染対策や湿度や温度管理にも配慮している。また、職員も環境の一部であることを認識し、物音や言動に配慮している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置を考慮し、気の合う方と会話したい方、静かに過ごしたい方、新聞を読みたい方、それぞれが思い思いに過ごせるように配慮している。玄関やフロアにソファを置き、行動に合わせて座ったり、休息することができ、居心地の良い居場所作りを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物や日用品、思い出の物などを身の回りに置き、落ち着ける居室づくりをしている。テレビを見る習慣のある方には自宅から持参したテレビを設置している。ベッドは個々の状態に配慮した配置にし、居心地よく過ごせるように工夫している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所がわかりやすいように名前や案内を明示している。洗面所には個々の洗面道具置き場を設け、自力で身だしなみを整えられるようにしている。		